

誠に申し訳ございませんが、以下の箇所の訂正をお願い申し上げます。

ページ	箇所	訂正前	訂正後
34	問 11 解説 2	副交感神経系の興奮により、大部分の血管平滑筋は弛緩する。副交感神経系の節後線維から放出されたアセチルコリンは、血管内皮細胞のアセチルコリン M ₃ 受容体に結合することで、血管内皮細胞から一酸化窒素 (NO) を遊離させる。NO は血管平滑筋のグアニル酸シクラーゼを活性化し、細胞内サイクリック GMP を上昇させることで、血管平滑筋を弛緩させる。	神経系 A ではなく神経系 B の記述である。大部分の血管は神経系 B である交感神経の支配を受け、交感神経が興奮すると節後線維から放出されたノルアドレナリンが血管平滑筋の α ₁ 受容体を刺激することで収縮する。
239	表 (2)凝固阻止因子 プロテイン C、プロテイン S の機能 3 行目	第 V、 Ⅸ 因子	第 V、 VIII 因子
341	問 8 問題 図	アルギニノコハク酸の構造 $ \begin{array}{c} \text{NH} \quad \boxed{\text{CH}_2\text{OOH}} \\ \quad \\ \text{C} - \text{N} - \text{CH} \\ \quad \quad \\ \text{H} \quad \text{H} \quad \text{CH}_2 \\ \quad \\ \text{CH}_2 \quad \boxed{\text{CH}_2\text{OOH}} \\ \\ \text{CH}_2 \\ \\ \text{CH}_2 \\ \\ \text{HC} - \text{NH}_2 \\ \\ \text{COOH} \end{array} $	アルギニノコハク酸の構造 $ \begin{array}{c} \text{NH} \quad \boxed{\text{COOH}} \\ \quad \\ \text{C} - \text{N} - \text{CH} \\ \quad \quad \\ \text{H} \quad \text{H} \quad \text{CH}_2 \\ \quad \\ \text{CH}_2 \quad \boxed{\text{COOH}} \\ \\ \text{CH}_2 \\ \\ \text{CH}_2 \\ \\ \text{HC} - \text{NH}_2 \\ \\ \text{COOH} \end{array} $
436	表 1) 特徴 基質特異性の詳細	～触媒作用を示す。 基質特異性が 高い酵素を ^{エンド} endo型、基質鎖の末端から作用する基質特異性をもつ酵素を ^{エキソ} exo 型という。	～触媒作用を示す。 (以降の文章を削除)
669	表 グラム陰性菌 4 行目	梅毒トレポネーマ (<i>Treponema pallidum</i>)	梅毒トレポネーマ (<i>Treponema pallidum</i>)

675	表 腸管病原性大腸菌 特徴	水溶性下痢	水様性下痢
677	表 クラジミア 性質	偏性細胞寄生性	偏性細胞内寄生性
679	表 深在性真菌症	クリプトコッカス症	クリプトコックス症
712	Exercise 379 6行目 後半	また、プリンヌクレオチドの中間 体はオロチジン酸である。	また、ピリミジンヌクレオチドの中間 体はオロチジン酸である。

誠に申し訳ございませんが、408ページの図は以下の図に差し替えをお願い申し上げます。

